

県立釜利谷高等学校・希望ヶ丘高等学校定時制の学校訪問の結果について

「神奈川の高校で学びたい生徒」を幅広く受け止めるため、多様な学習機会の提供に努めている県立高校の実情を視察することを目的に、平成 23 年 9 月 29 日（木曜日）に横浜市にある県立釜利谷高等学校と、希望ヶ丘高等学校定時制を訪問しました。

（１）釜利谷高等学校訪問

釜利谷高校は昭和 59 年 4 月に開校し、これまで 7,000 人を越える卒業生を送り出しています。平成 21 年度からは「クリエイティブスクール」として、学習意欲を高める新たな学校のしくみに取り組んでいます。



「国語総合」の授業を視察しました。生徒は緊張した様子でしたが、落ち着いた授業が行われていました。

学校長からは「クリエイティブスクール」としての、学習意欲を高めるための新たなしくみの一つである「わかる授業」の取り組みや、きめ細かな指導により、生徒が変わっていった状況などの説明を受けました。

また、生徒 4 人と意見交換を行い、「分かるところまで立ち戻り、学び直すことで勉強が楽しくなることの大事さ」など、活発な意見交換が行われました。



写真部の生徒がカメラマンになり、知事と記念撮影を行いました。

(2) 希望ヶ丘高等学校定時制訪問

希望ヶ丘高校定時制は、大正14年からの長い歴史を持っており、「一人ひとりを大切にしたい、きめ細かい指導」を行っています。



学校長から概要説明を受け、「体が弱くて、3年制では不安だが、4年制ならじっくりと学べるから」という理由や、外国人の生徒から「少人数学級で多言語（当校では10カ国語）に対応している」という理由で定時制が選ばれていることなど、今日の定時制が果たす役割について理解を深めました。

食堂では、生徒たちと意見交換を行いました。

定時制のしくみで4年間学んできた生徒たち8名と、これまでの学校生活や今後の進路、4年間での学びの様子などについて活発に意見交換を行いました。



「家庭総合」と「化学Ⅰ」の授業をそれぞれ参観しました。

生徒は先生の話をも熱心に聞きながら授業を受けていました。

